

平成30年度弘前大学ボランティアセンター活動報告会～相次ぐ災害から地域を守る～を開催

平成31年3月10日(日)にヒロロ4階市民文化交流館ホールにおいて、平成30年度の活動を弘前市民と共にふりかえり、新年度の活動へ活かすことを目的に、弘前市と共催で開催しました。

第1部では、市民ボランティアの中畑茂樹さんから、野田村交流活動に参加した際の思いや感じたことが語られ、北海道胆振東部地震支援金募金活動報告を行った農学生命科学部1年 武藤 春香さんからは、募金活動を行うことで、すぐに風化してしまう災害の記憶や被災地についての思いをつなぎとめることができ、継続した実施が必要である旨の報告がありました。また、弘前医療福祉大学短期大学部救急救命研究会からは、救急救命の処置法が市民全体に広がることで一時救命措置の成功率が高まり、弘前市全体で緊急時の生存率が高まることなどについて報告がありました。

地域社会のニーズや今後の本センターにおける活動の方向性について、市民の皆様との意見交換会を実施しました。市民や学生からは、学生ボランティア数の減少に対して対策が必要である事や、センターと行政等との役割分担が必要であることなどについて意見がありました。



2年古堅駿さんのみらい学習支援報告



意見交換会の様子



3年磯野雄太郎さんから学生事務局の報告



弘前医療福祉大学短大 救急救命研究会の報告

ボランティアへのご参加、募集等について

ボランティアへの参加について

ボランティアに関心をお持ちの方は下記までお問合せください。

- ・弘前市民の方・・・弘前市ボランティア支援センター TEL：0172-38-5595
- ・弘前大学関係者・・・弘前大学ボランティアセンター E-mail：huvvc@hirosaki-u.ac.jp

学生ボランティアの募集の周知依頼、派遣依頼

学生ボランティアを募集したい団体からの周知、派遣要請を受け付けております。

詳しくはボランティアセンターのホームページをご覧ください。センターへ直接お電話等でご相談ください。

(※各種申請書類提出後、団体登録の可否、ボランティア要請の審議をさせていただきます。審査等に期間を要しますので、余裕を持って登録申請等行っていただきますようお願いいたします。)

- ・弘前大学ボランティアセンター・・・HP：http://huvvc.net/ TEL：0172-39-3268
平日午前10時～午後3時

弘前大学ボランティアセンター (HUVVC) 平日午前10時～午後3時

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

TEL：0172-39-3268 FAX：0172-34-5251 E-mail：huvvc@hirosaki-u.ac.jp

弘前大学ボランティアセンター (HUVVC)

News Letter

第8号

岩手県野田村の交流活動報告(2019年7月6日)

令和元年7月6日(土)に岩手県九戸郡野田村にて、今年度第1回目の野田村支援交流活動として、野田村で開催された「ボランティアまつり」への参加を行いました。

今年で6回目となる野田村ボランティアまつりは昨年同様、野田村保健センターで開催され、今回は本学関係者9名、一般市民14名の計23名が参加し、協働で棒パンづくり、プレイパーク、小麦粉粘土遊びコーナー運営を行い、野田村民の方々との交流を行いました。

7月6日、岩手県野田村のボランティア祭りに、弘前市民の方々も参加してきました。

野田村の会場では開会宣言の後、みんなで追悼の風船を飛ばしました。弘大ボランティアセンター以外にも青森県立保健大学の三味線サークル、岩手県立久慈工業高校のみなさんなどたくさんの方で賑わっていました。

その後各担当ごとにセンター名物の棒パン、コミュニティ茶屋、プレイパークを実施しましたが、今回プレイパークには初めて小麦粉粘土のコーナーも設けました。小麦粉粘土は小麦粉に水、塩、

油をいれてこねるだけで粘土状になり、小さい子どもにも安全に遊んでもらえるものです。いつもどおりプレイパークは大人気で赤ちゃんから中学生まで楽しんでいました。

今回も、弘前市民の皆さんにたくさんたくさん助けをいただき、大きな問題もなく交流活動を終えることができました。本当にありがとうございました。震災から8年経ちますが、今回の活動場所には震災の様子を展示しているコーナーもありました。展示や交流などで、震災を風化させないことが一番大切なことだと思います。またみなさんで力を合わせて交流活動を成功させましょう！

(担当：人文社会科学部3年 磯野雄太郎)



集合写真



プレイパークの様子

岩手県野田村の交流活動報告(2019年7月28日)

令和元年7月28日(日)今年度第2回目の野田村支援交流活動として、昨年同様に野田村新町地区コミュニティセンターで開催された「新町地区夏祭り」へ本学関係者12名、一般市民27名の計39名が参加しました。

まつりが始まると、地区内の方々が続々と集まってきました。震災直後からお世話になった方や、仮設住宅での活動の際にお会いした方など、顔馴染みの方々が笑顔で迎えてくださいました。市民ボランティアの皆さんも久しぶりの再会を喜んでいました。仮設住宅でお世話になった方は、「こっちは新しい家だよ」と真新しいお家を見せてくださいました。

新町コミュニティセンターの裏庭では、子どもたちの縁日

コーナー、大人向けのBBQコーナー、弘大ボランティアセンターの棒パンコーナーができ、地域住民とボランティアの皆さんとの交流が大いに盛り上がりしていました。3時から地元保存会の皆さんの音頭で、盆おどり大会が始まりました。地域の皆さんとボランティアの皆さんが加わり、中庭いっぱい踊りの輪が広がりました。踊りの後、来年の開催を約束して出発しましたが、野田村の皆さんが最後まで手を振って見送ってくださいました。

帰り道に2018年3月に完成した東日本大震災の大津波記念碑があるほたてんぼうだいを視察して、野田村を後にしました。帰りのバスの感想では、「野田村の皆さんと盆おどりが出来て感無量です。」「懐かしい顔と再会で嬉しかったです」「今も交流活動が続いていることに感動しました」などの声がありました。また、備品の忘れ物が無いように準備・点検を徹底してほしいとの反省の声もありました。

大変暑い中でしたが、誰一人、体調を崩す人もなく、笑顔いっぱい、汗いっぱいの一日でした。お疲れ様でした。

(担当：人文社会科学部 李 永俊 教授)



集合写真



輪になっての盆踊り

岩手県「野田村宿泊学習支援事業」報告(2019年8月11～12日)



植樹

今年も「野田村宿泊学習支援事業」を実施しました。参加者は弘前大学から学生8名、教員1名、インストラクターの講師2名、ボランティア学生事務局のOB1名の12名でした。現地で野田村の子どもたちが28名合流し、総勢40名の参加でした。

プログラムの運営は、今年もスポネット弘前理事長 鹿内氏、アドベンチャープログラム in 青森の久保氏が担当してくれました。また、宮古市で活躍中のエンジョイスportクラブの関口氏が細いベルトの上を歩いたり、飛んだりする綱渡りをスポーツ化した「スラッグライン」を持参して来てくれました。子どもたちは熱心に挑戦し、1時間もすると、スムーズに綱渡りができるようになりました。今後も、様々な方の協力を得ながら、子どもたちがいろんな体験ができるようなプログラムを取り入れたいと思います。

その後は、十府ヶ浦公園に移動しライトアップ・ニッポン(花火打ち上げ企画)に参加。今年は特別企画で、野田村の花であるハマナスを植える植樹祭が行われ子どもたちは元気いっぱいに参加してくれました。3年後の夏には赤い花が咲くそうです。みんなで見るのが楽しみです。

二日目は、駐車場でラジオ体操から始め食事の後、保健センターへ移動し、今年初めて実施する「野田村クイズラリー」ノダムラウォーク～むらのお宝を探せ～」を行いました。村にまつわるクイズシートと地図をもとに、時間内に答えと村の宝を写真で納めて帰還する宝探しゲームです。各班別に作戦会議を開いて、会議が終わった班からそれぞれさまざまな方向に向かって出発しました。

役場で職員に質問したり、愛宕神社の宮司さんに質問するなど、クイズラリーの終了時刻の5分前には、笑顔いっぱいの子どもたちが戻ってきました。

答え合わせでは大きな歓声上がり、正解率は7割近く、村への理解と興味が深まった大変有益な時間でした。また、各班が工夫をこらして取ってきた写真もインストラクターのSNSなどを通して、多くの方に評価してもらいました。

お昼のBBQでは野田村産のホタテや福豚などを皆でいただきました。また、弘大ボランティアセンター恒例の棒パン作りも行いました。美味しくお腹いっぱい昼食でした。

片づけ後のお別れ会では各班毎に二日間の感想発表がありました。野田の子どもたちからは、「クイズラリーが面白かった」、「みんなで話し合ったら工夫したりしたことが楽しかった」、「はじめは不安だったけど、大学生が優しくって楽しかった」などの声が聞こえました。大学生の皆さんからは、「野田村の子供たちは本当にいい子だった」、「来年もぜひ参加したい」、「忘れられない二日間でした」などの声が聞こえました。

今年も笑顔いっぱいの二日間を野田村の子どもたちと一緒に過ごせたことが何より嬉しかったです。

(担当：人文社会科学部 李 永俊 教授)



集合写真

【平成30年度野田村支援交流活動 追悼行事】

平成31年3月11日岩手県野田村「ほたてんぼうだい」を会場に追悼行事が行われ、多くの人々が献花及び黙祷を行いました。今回野田村交流活動としての参加者は本学関係者6名、市民21名の計27名で、震災から8年目となる被災地へ思いを寄せました。

まず、野田村保健センターに訪問し、2階の震災に関する展示を見ながら、震災前の野田村の様子を職員の方から説明を受けました。

震災前には、野田村のメインストリートとして建物が多くあった場所も、現在はほとんど建物がないことを実際に目にする事で改めて震災の被害を実感しました。こうした施設があることで、東日本大震災の被害を後世まで受け継ぐことが出来ると思いました。

私が野田村を訪れるようになってから4年経ちますが、初めて訪問した時と比べると、建物も増え、道路も整備されています。小さな変化かもしれませんが、復興は進んでいます。同時に、野田村では震災前は海を町から見る事が出来たのに関

わらず、現在は防波堤があるため直接見ることは出来ません。安全のためとはいえ、その話を聞くたびに寂しく悲しい気持ちにもなります。

私はこの春に卒業します。これから先、様々なことがあると思いますが、3月11日が来るたびに野田村のことや弘前大学ボランティアセンターのことを思い出したいと思います。それぐらい私にとっては、濃く貴重な経験でした。ボランティアセンターでの活動を通して関わることの出来た全ての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

(担当：農学生命科学部4年 齊藤 希媛)



平成31年3月11日 東日本大震災追悼行事への参加

青森県警サイバー防犯ボランティアの委嘱と活動

当ボランティアセンターでは平成29年度から、青森県警察本部が実施するサイバー防犯に係る取組の一環であるサイバー防犯ボランティアへの参加学生募集及び派遣に対して協力を行っています。

令和元年6月12日(水)、弘前大学創立50周年記念会館2階 岩木ホールにて、令和元年度の「弘前大学学生に対する青森県警察サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式」を開催しました。

交付式では、委嘱された10名の学生を代表して、農学生命科学部3年 岩島綾耶乃さんが委嘱状の交付を受け、決意表明として「安心安全なサイバー空間の確保に貢献する」と力強い言葉で宣誓が行われました。

7月17日に東目屋中学校、7月19日には弘前第五中学校で、同じく委嘱を受けた農学生命科学部4年 石井優璃さんと、同学部4年 川村示鳩さんが委嘱メンバーで作成した資料を基に、インターネットやSNS、スマホアプリなどの危険性や被害にあった際の対処法などの啓蒙活動を実施しました。



委嘱状交付式の様子

平成30年度第3回市民ボランティア講座「広がれ子ども食堂の輪」全国ツアー in 青森を開催

平成31年2月2日(土)子どもの貧困問題・孤食問題への対応策の一つとして全国に広がっている子ども食堂への理解を深め、少子化が進んでいるこの地域において子ども達への支援の輪を広めることを目的に、本学文京キャンパス大会館及び総合教育棟にて、「広がれ子ども食堂の輪」全国ツアー in 青森を開催。子ども食堂運営者、福祉・行政関係者、本学教職員・学生など全体で約80名の方々にご参加いただきました。

第1部では、子ども食堂の多様な有り方について学び事象を目的として、軽食の提供や学習支援、遊びの提供を通じて子ども食堂の一例を体験していただく「子ども食堂体験」を実施しました。

第2部として、NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 理事長 栗林知絵子氏から「地域を変える、子どもが変わる、未来を変える」と題して、自身の活動を通じて経験した子どもの様々な問題や、全国の子ども食堂の事例、一団体でできることはとても小さいが、ネットワークを構築して活動すれば継続的な活動が可能となることなどについてご講演いただき

ました。

第3部では、子ども食堂の基礎知識や開業の際の注意点などについての情報提供や意見交換を行う「たまご相談室」と、子ども食堂の運営者や開業準備をしている個人・団体を対象に、運営上抱えている問題についての相談や今後の活動の注意点などについて情報提供及び意見交換を行う「ひよこ相談室」の分科会を実施。どちらの相談室も時間いっぱい相談や意見交換が行われ、より実践的な情報提供を行うことができました。

最後に、本センター副センター長の李永俊から、地域を守るために子ども食堂は非常に大きな役割を果たすことができると考えており、青森県全体で連携して今後も子ども食堂や学習支援の展開を進めて行くことが重要で、本学ボランティアセンターも学生力を活用しながら役割を担っていきたい旨の総括がありました。

今後も本センターでは、子どもが抱える様々な問題へ取り組んでいく予定です。



子ども食堂体験



講演の様子



ひよこ相談室の様子